

## 籾の黄化率(85~90%)を圃場ごとに確認して適期に収穫しましょう!

～ 刈り遅れによる胴割粒発生に注意! ～

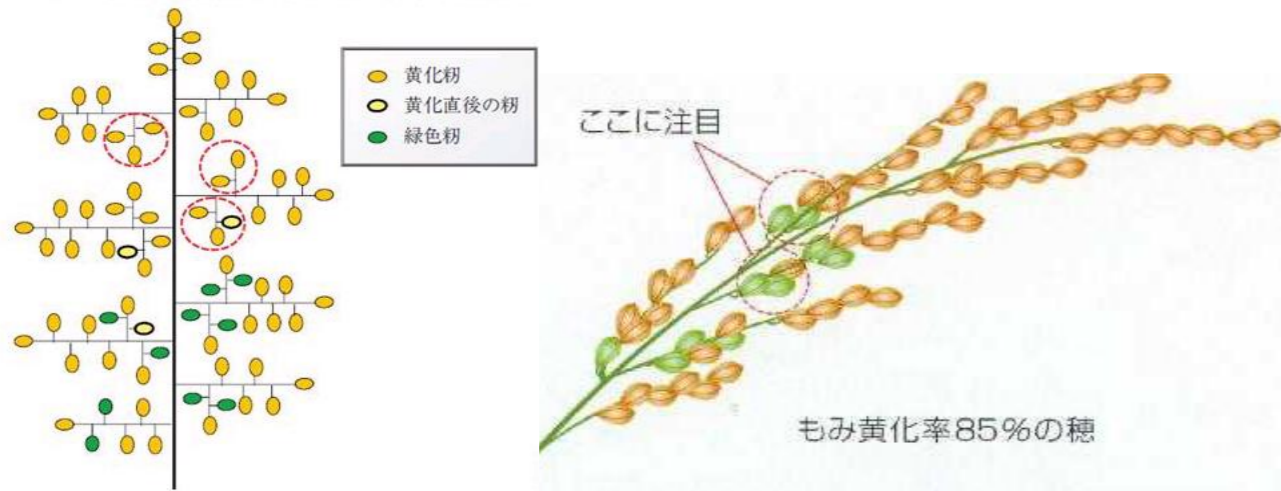
### 1. 出穂後積算温度による刈取適期のめやす (8月15日現在 JAえちご中越)

	出穂期 (基準日)	刈取適期のめやす	必要積算温度
コシヒカリ(栃尾平場)	8月4日	<b>9月10日頃</b>	※950℃
コシヒカリ(栃尾山間部)	8月5日	<b>9月13日頃</b>	1,000℃
コシヒカリ(山古志)	8月2日	<b>9月18日頃</b>	1,050℃
新之助	8月11日	<b>9月27日頃</b>	1,075℃

※8月15日までは本年値、それ以降は平均値(2014~2023)を使用。今後の天気により変わることがあります。

※コシヒカリ(栃尾平場)は高温気象で経過しているため、収穫適期のめやすは平年より50℃(2日程度)早めています。

### 2. 1穂の上位3~4本目の1次枝梗に着生する2次枝梗籾が黄化した時期(籾黄化率85~90%程度)が、刈取適期です。



◎ 点線内(上位3~4本目の1次枝梗に着生する2次枝梗籾)が黄化した時が刈り取り適期。

◎ 籾黄化の診断は1次枝梗が8~9本程度の平均的な穂について行う。調査本数は10穂程度必要。8本以上が該当すれば刈り取り適期。

◎ 収穫は「収穫適期のめやす」を参考にし、ほ場全体を見て籾の黄化割合が85~90%になったことを確認して収穫しましょう。

## 10月中旬までに「稲わらの“秋すき込み”」と「土づくり肥料の散布」を実施しましょう!

- ◎ 「稲わらの“秋すき込み”」と「土づくり資材の散布」は、水田の地力維持と令和7年産米の高品質・安定生産の準備として、大切な作業です!
- ◎ 水田への稲わら秋すき込みは、**堆肥施用と同等の「土づくり」効果が期待**できます。(図1)
- ◎ 稲わらや籾からは土づくりとケイ酸の補給に向けて有効活用しましょう。

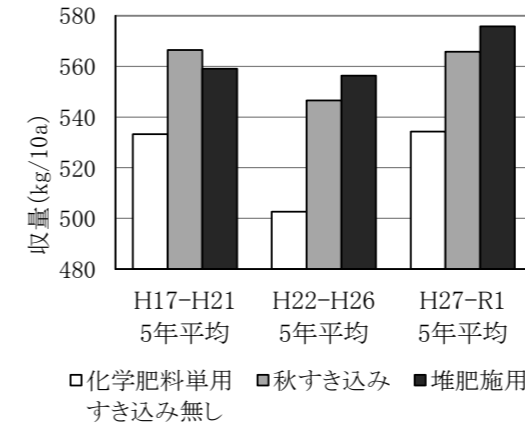
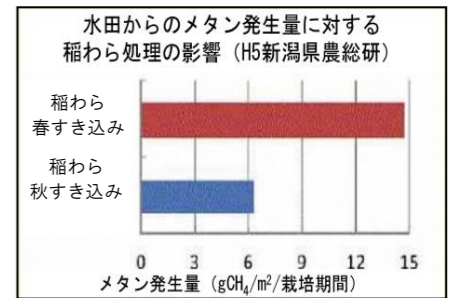


図1 有機物長期連用による収量推移 (H17年~R元年、新潟農総研)  
※コシヒカリ場内 現地の2ほ場平均



### 3. “秋すき込み”の効果

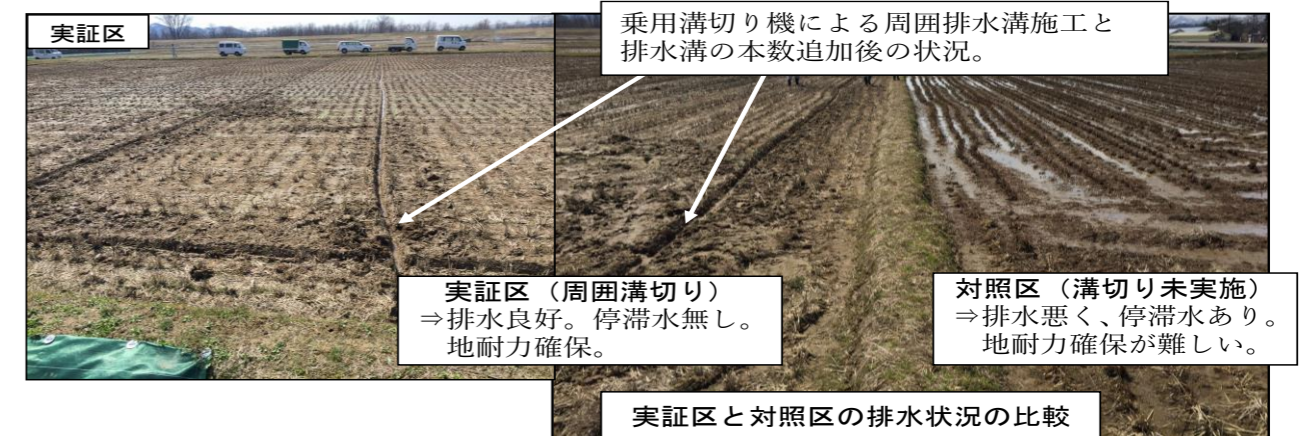
- (1) 土壌の地力窒素が、**稲わら堆肥並み**に維持されます。
- (2) 根腐れの原因となる**ワキの発生が軽減**されます。
- (3) 稲が**吸収可能なケイ酸を増加**させます。
- (4) 水田の**保水力が向上**します。
- (5) 地球温暖化ガスである**メタンの発生を抑制**します。



### 4. “秋すき込み”の方法

- (1) 地温が15℃以下になると微生物の活性が低下するので、微生物の活動が盛んな(地温15℃以上)10月中旬までに、すき込みましょう。  
→ 翌年の稲作期間のワキ(硫化水素やメタン)の発生が少なくなります。
- (2) すき込みの耕深は、作業効率と稲わらの分解促進の為、**5~10cm程度に浅く耕起**しましょう。

※水はけが悪いほ場や、枕地などで滞水し“秋すき込み”が難しいほ場では、可能な限り溝を切って表面排水に努め、田面を乾かしてください。溝は必ず排水口につなげましょう。



【参考】H29年度宮内地域品質向上プロジェクト「砂利採取後排水不良ほ場の排水対策」  
実証圃の本田準備排水状況 (H29 JA越後ながおか、六日市)



## 5. 稲わら分解資材を散布しましょう！

腐熟促進材（アグリ革命、アグリ革命アクア、ワラ分解キング等）を、すき込み前に施用すると稲わらの分解が進みます。（※令和6年9月1日現在の当用配達価格です）

ドローンでの散布も可能！

### 『アグリ革命』 当用配達価格：2,470円（税込）

- ・細粒剤、10a 当り 2kg（1袋）の低散布量。
- ・酵素の力で稲わらを分解するため、乾田・湿田に関係なく土壌環境に影響されにくい。

### 『ワラ分解キング』 当用配達価格：2,410円（税込）

- ・顆粒剤、10a 当り 10kg（1袋）を散布。
- ・稲わら表面のワックス層分解菌とセルロース分解菌による2種類の分解菌のコンビネーションにより稲わらの分解を促進。

### 『ファイン』 当用配達価格：3,170円（税込）

- ・粒剤、10a 当り 5kg（1袋）の低散布量。
- ・圃場にいる土着菌の増繁殖を促し、その活性を最大限に引き出しワキや浮きワラを軽減します

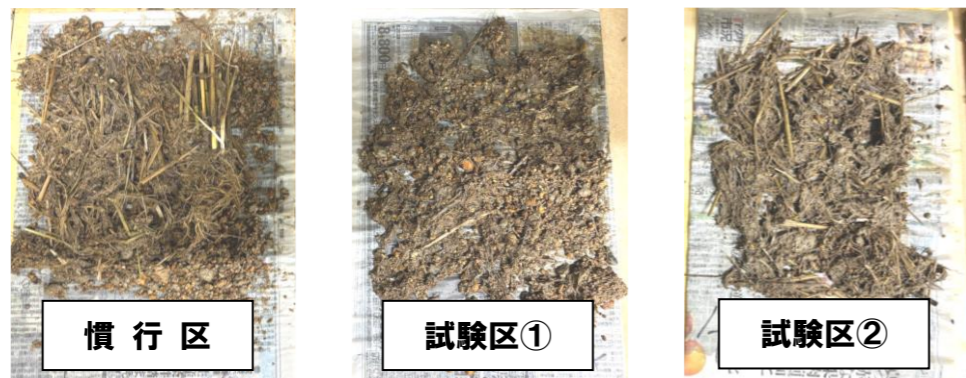
### 『ワラクサル EX』 当用配達価格：3,900円（税込）

- ・粒剤、10a 当り 9.5kg（1袋）を散布。
- ・圃場にいる土着菌の増繁殖を促し、その活性を最大限に引き出します。
- ・気象条件等の変化にも各ステージで安定した効果が得られます。



### 【参考：山古志地区における稲わら分解剤試験結果】

資材散布：10月5日(散布後耕起)、 分解状況確認：4月18日



※昨年、ひこばえが多く発生していたが、地温が低く稲わら分解しづらい山間地でも資材効果により細かく分解され浮きわらなどを大幅に減らすことができた。

### ＜注意＞

エコ・5-5圃場では、「稲わらの腐熟促進を目的」とした場合のみ、「石灰窒素の使用」が可能です。ご使用の場合は、必ず営農担当にご相談下さい。

石灰窒素を、化学肥料または農薬の扱いとして使用する場合は、エコ・5-5栽培基準を満たさなくなりますのでご注意ください。

【※ 県認証の場合、「石灰窒素」は使用できませんのでご注意ください。】

お問い合わせ先	○ながおか営農センター	☎0120-915882
	○とちお営農センター	☎0120-915885

## 6. 土づくり資材（ケイ酸、鉄など）を施用しましょう！

管内でケイ酸や鉄が不足しているほ場が目立ちます。ごま葉枯病発生ほ場や下葉が枯れ上がる“秋落ち”水田ではケイ酸質肥料や含鉄資材（ケイカル、ようりん、マルチサポートFe、みつパワー、農力アップ、苦土重焼燐など）を散布しましょう。（※令和6年9月1日現在の当用配達価格です）

### ＜ケイ酸の効果＞

- ①茎が丈夫になり倒伏しにくくなる。
- ②根の活力が向上する。
- ③いもち病、カメムシ斑点米の発生を抑制する。
- ④高温登熟下の品質向上効果がある。

### ＜鉄の効果＞

- ①硫化水素（ワキ）を無毒化し根腐れを防止する。
- ②ごま葉枯病にかかりにくくする。



### ◎「みつパワー」

- ・当用配達価格：1,510円（税込）
- ・散布量目安：60kg～120kg/10a
- ・ケイ酸25%、鉄、マンガンを含んでおり、低コストで総合的な土づくり肥料です。

### ◎「マルチサポート Fe」

- ・当用配達価格：1,879円（税込）
- ・散布量目安：40kg～60kg/10a
- ・ケイ酸19%、酸化鉄11%入っており、ごま葉枯病や低地力ほ場での秋落ち対策に効果のある総合的な土づくり肥料です。

## 7. 土づくり肥料の《秋散布》を応援します！

### ◎土づくり肥料購入支援

- (1) 完熟発酵ケイフン『みやぎ有機(旧イセ有機)15kg』(550円/袋(当用配達価格)) 3袋以上/10a(1ha以上散布)すると、**180円/10a**を支援します！

- (2) 下記の「ケイ酸質資材」を基準施用量以上散布いただくと**300円/10a**を支援いたします。

【対象品目】	①みつパワー	②ソイル米スター	③マルチサポートFe	④農力アップ
【基準量】	60kg/10a以上	30kg/10a以上	40kg/10a以上	60kg/10a以上

### ◎土づくり散布作業支援（作業受託支援）

J A重点品目である土づくり資材をJ A作業受委託にて圃場散布を行った作業受託者に対して支援します。

#### 【支援基準】

作業：J A農作業受委託を介し土づくり肥料をほ場散布

助成：散布面積10aあたり、作業受託者(受託者)へ1,500円を支援

散布量：みやぎ有機(旧イセ有機) コシヒカリ 45kg/10a こしいぶき 75kg/10a

肥料名	みつパワー	ニュー米スター	マルチサポートFe	農力アップ
施肥基準	60～120kg/10a	30kg/10a	40～60kg/10a	60kg～100kg
当用配達価格	1,510円/袋	1,670円/袋	1,879円/袋	1,710円/袋

(※令和6年9月1日現在の当用配達価格です)